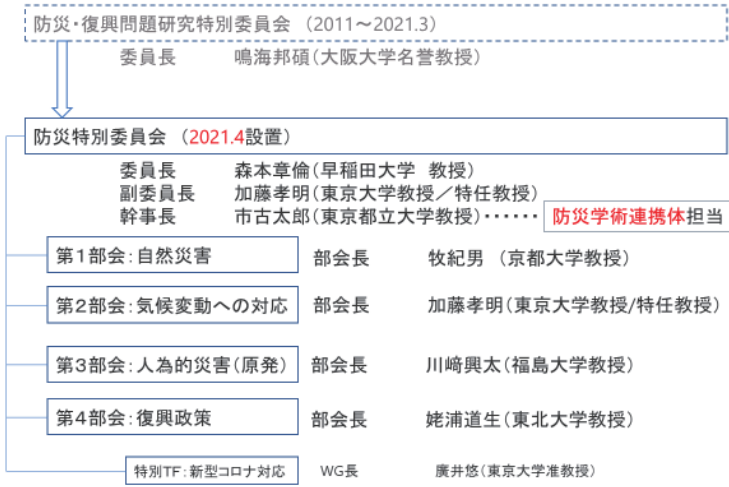


都市計画における災害対策の今後の方向性 ～気候変動への対応～

都市計画学会の取り組み



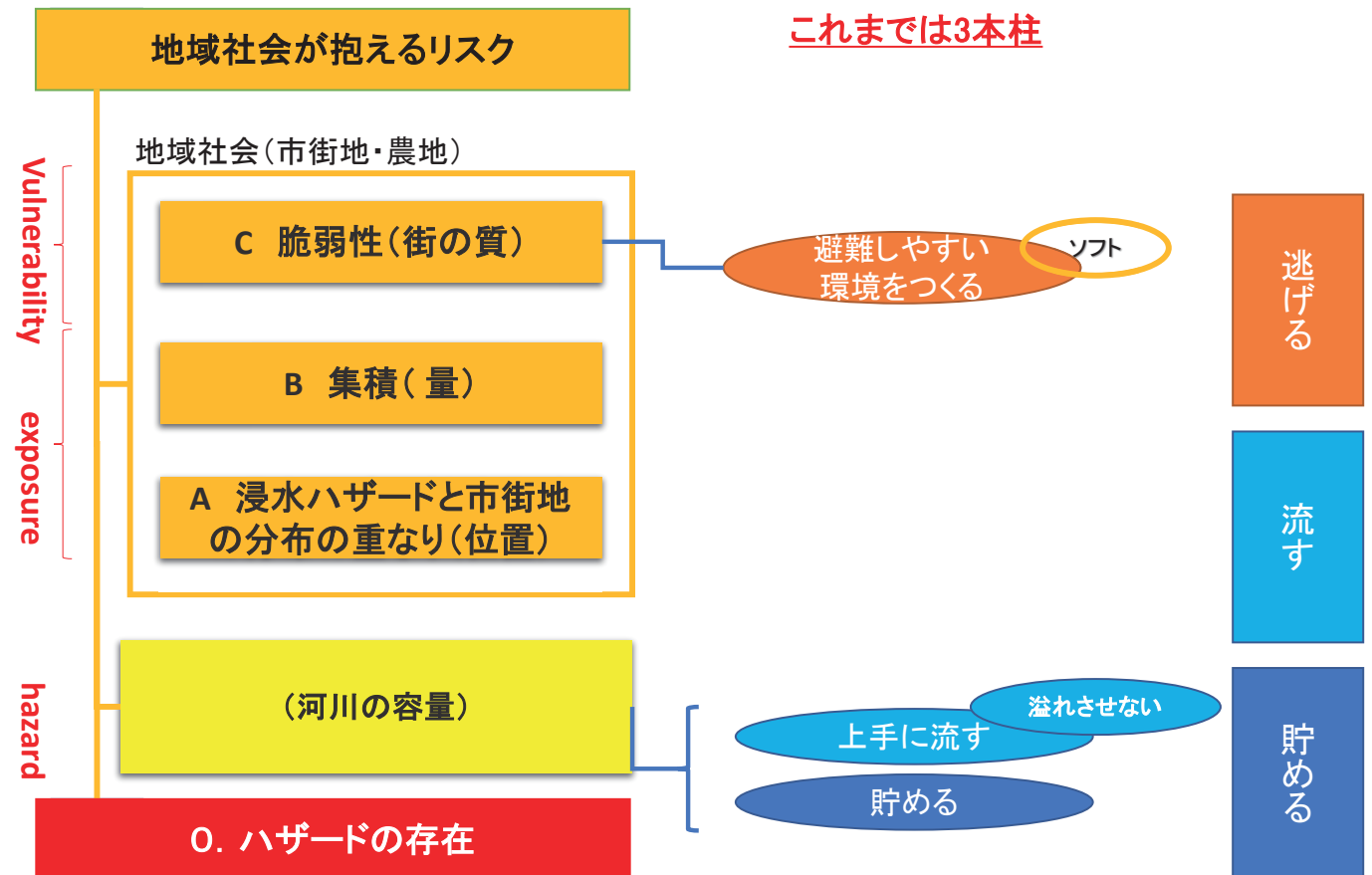
- 2021.11 特別委員会シンポジウム
- 2021.11 全国大会ワークショップ
「浸水想定区域の都市的土地利用をどのように考えるか」
- 2022.5 公開研究会
「気候変動への適応: 都市計画の可能性と課題」
- 2023.2 防災学術連携体の第18回Web研究会
「気候変動の時代における都市計画の役割 ～増大する水害リスクへの対処」

東京大学生産技術研究所・教授/東京大学社会科学研究所・特任教授
加藤孝明
(まちづくり, 都市計画, 防災, 地域安全システム学)
都市計画学会防災特別委員会・副委員長(2021年度設置)

治水対策のパラダイムシフト

リスクの構造と流域治水: 「貯める」, 「流す」, 「逃げる」の3本柱

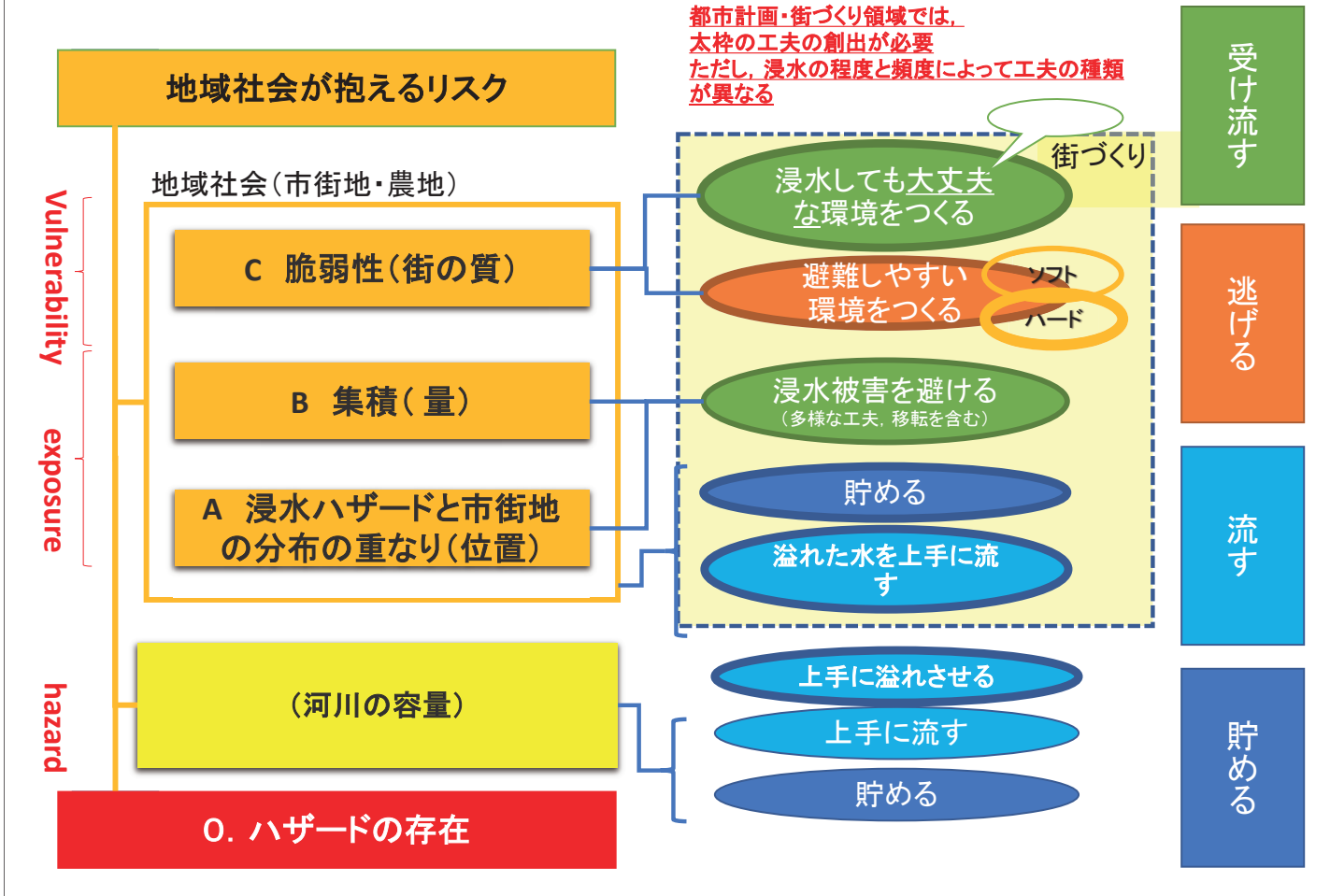
リスクの構造



治水対策のパラダイムシフト

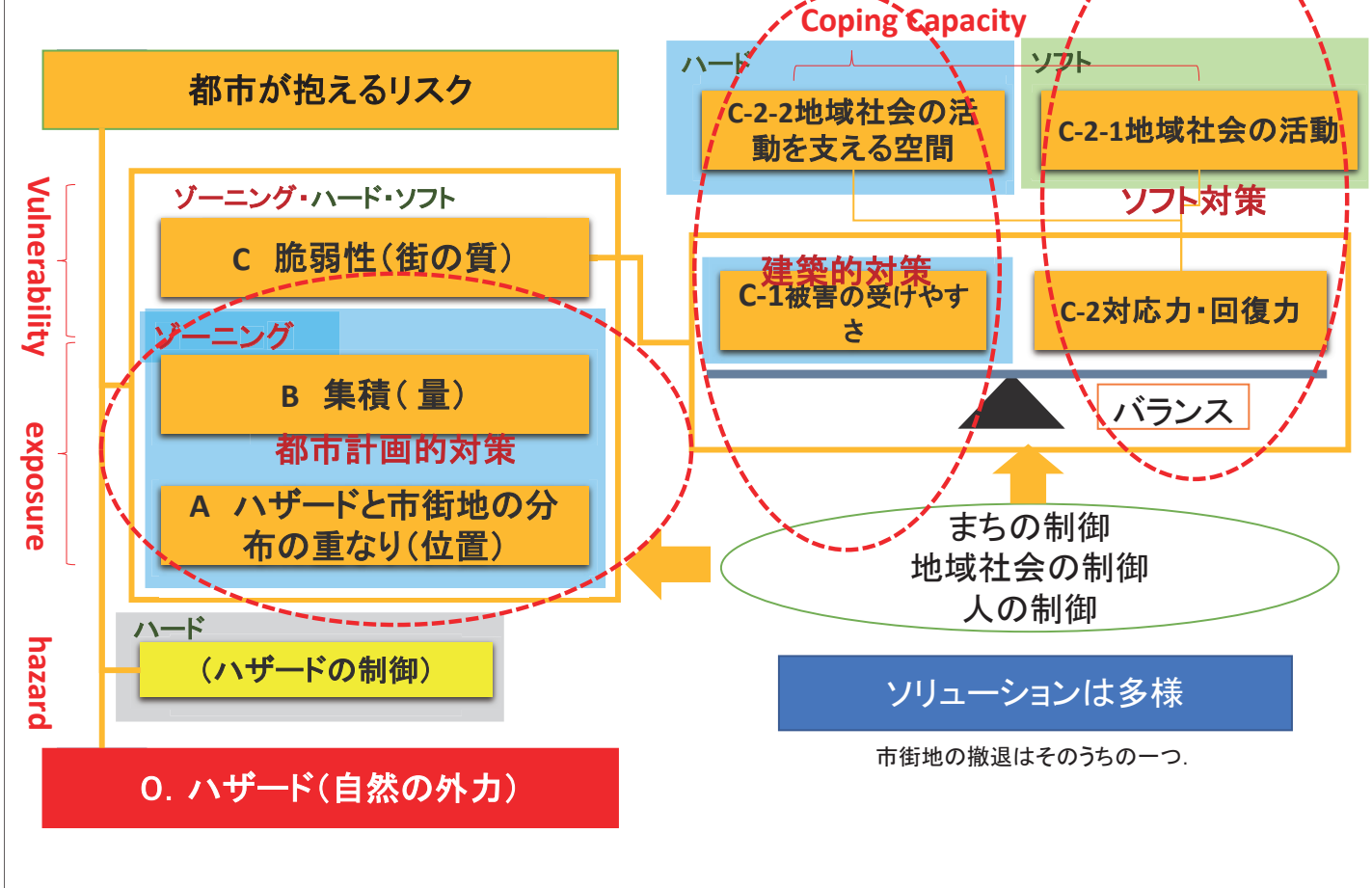
リスクの構造と流域治水：「貯める」、「流す」、「逃げる」の3本柱

都市計画・街づくり領域では、
本柱の工夫の創出が必要
ただし、浸水の程度と頻度によって工夫の種類
が異なる



都市計画分野の論点

1. 自然災害リスク低減において都市計画の潜在力をどう活かすか
2. 多様なソリューションがあり得ることをふまえ、どう前に進めるか



気候変動への対応：今後の議論の方向性

- (連続値としての)安全の水準＝リスクの許容水準
 - 第3のフェーズへ
 - ①命を守る⇒②財産を守る⇒③災害を(難なく)乗り越える
 - 建築的工夫, 街づくり的工夫
 - 避難環境の工夫, 被災時の生活環境の工夫, 復興の事前準備の工夫
- 実効性のある対策手法の開発
 - 建築スケール
 - 地区・都市スケール: 立地適正化計画における防災指針(ハード), 地区防災計画等(ソフト)
- 時間軸
 - 気候変動の時間軸 = 都市計画・地域づくりの時間軸 ※整合的
 - 異なる計画間の時間軸の整合化
 - 計画期間 : 河川整備計画・整備方針 > 都市計画(10年～20年程度)
 - 計画策定時間: 河川 < 都市計画(合意形成に時間がかかるため長い)
- 計画間の関係性
 - 河川側からの**一方通行から双方向へ**
 - 洪水ハザードの提示⇒地域社会での対策
 - 地域社会での対策の限界⇒浸水被害リスクの制御へ(地域社会側)
 - 地域特性をふまえて, 都市計画, 街づくり等で最大限の努力を行うことを前提として
 - 限定された対象地域では, (強力な)立地規制+浸水対応化
 - (河川側)
 - 地域特性に応じた浸水被害リスク(頻度・浸水深・流速)の計画的制御の可能性の探求
- 空間軸＝計画の単位
 - 上下流の浸水リスクバランス, 役割分担の計画化
 - **自治体の枠を超えた流域単位での計画のしくみ**
- 人材育成
 - 河川が分かる都市計画・地域づくりの専門家の育成が不可欠
- 社会啓発
 - 防災教育を超えた防災文化の醸成
 - 流域における**運命共同体意識**の醸成が不可欠:
 - (被害を受けるにもかかわらず)「我々には地形からくる上流の責任がある」=中流の上流への感謝
 - ⇔「人知れず犠牲になる」